

今後の取り組みの進め方について（案）

1. 昨年度のふり返り

SWIM の整備開始を契機としてスタートされた本検討会の議論は、昨年度 6 回を数えた。テーマを決め打ちせず、幅広い参加者からのご発表や議論、意見交換をいただいたことにより、本来のきっかけとなった SWIM の整備やデータ提供に関する議論のほかにも、様々なテーマや気づきの点が共有された。

例えば、

D×推進の現状と課題認識については、イレギュラー時の迅速な顧客対応を含む業務や二次交通への接続の効率化の必要性、空港での申請手続き等の業務のデジタル化による効率向上の希望に関するご議論があった。

データ提供の枠組みでは、即時性の高い提供データの取り扱いやガバナンスなどに関するご議論があった。

また、航空会社や空港運営者などにおける実務の実施にあたって、必ずしもデジタル化に限らず、航空機運航や空港運用、二次交通に関する幅広い気づきやご提案が検討会の場に上がった。

2. 先行的な取り組みの実施の提案

新年度に入り、これら幅広い取り組みへの意見やアイデアを踏まえながら、検討会の議論を、より実施にウェイトを置いた方向性にしてはどうかと考える。

具体的には、SWIM に関する進捗状況や全体の取り組みの推進についての議論は引き続き進めるとともに、検討会の議論で出てきた個別の取り組みアイデアのいくつかについて、先行的にどのように進めていくかについて議論をすることとしたい。これは、いわば「小さくても嬉しい事を作っていく」ことが良いのではないかと、という考えになる。試行、実証といったステップも経ながら具体的な実施や合意形成ができれば、それが点火剤となって、また新たな気づきや取り組みのアイデアが生まれることもあるのではないかと。一歩一歩という言葉もある。

また、制度やシステムといった大きな議論を進める際にも、より具体的に、関係者

間の共通認識や相互認識を深めることは、有益と考える。

以上の考え方のもとに、ご議論いただいた各種テーマやアイデアの中から、関係者において、実現のための必要性や熟度が比較的高いと思われるテーマについて関係者による実務的な検討を進めるチーム（仮称）を作り、立場にとらわれず実現に向けた議論を進めていくことを提案したい（これら各チームでの取り組みは検討会本体に逐次フィードバックしていく）。